

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富712-1 (電話) 0585-34-1947		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (1ヶ月以内)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		650 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 60 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおのクリニック、増田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から6年を経たこのホームは、管理者夫婦が情熱を持って立ち上げ、従来の福祉概念を取り払って利用者がのびのびとその人らしく暮らせるような支援を行っている。利用者が自分の役目と認識して庭やリビングの掃除を積極的に行ったり、職員が行う夜間の見守りを手伝うなど、ホーム全体が家族のようになっている。管理者の心遣いで、事情によっては子供連れでも勤務できる体制にもなっており、ホームの中を子供達が行き来し、利用者も孫のように可愛がっている。ホームの理念である「穏やかな信頼ある介護」によって介護度が軽くなり、生活が180度良い方へ転換した利用者もいる。管理者と職員は常に高い改善意識を持ち、ホームが地域にとっての大切な存在として貴重な社会資源となるよう日々の支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は4点あり、すべてが改善されているわけではないが、1つずつ職員間で話し合い、改善されていた。記録物と記入については分かりやすい書類の作成と記入方法を改善し取り入れた。「重度化・終末期の指針」「災害対策」については、引き続き取り組む課題として認識している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者の作成した自己評価の案に職員の意見を集約し、まとめあげ完成させたものである。評価の結果はケア会議内で報告され、ホーム全体のサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、家族代表・行政・民生委員・地域内他ホーム代表者・包括支援センター職員などの幅広いメンバーで構成され行事計画や空室状況などを報告している。行政の仲立ちで地域内5ヶ所のグループホームが毎月会議を行い、ホームの管理者が相互の運営推進会議に参加し合い、意見交流を通して、「行政」「住民・家族」「事業者」が三位一体となって地域全体の福祉を考える場として活用され、他地域の手本ともいえる運営推進会議となっている。</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>ホームは家族の意見を大切に受け止め取り入れたいとの思いを持っており、家族の訪問時や電話などできめ細かく連絡・聴取を行っている。不定期であるが、行事内容や活動の様子などをホーム便りで知らせている。家族からの意見や要望は、毎月行う全体会議やケア会議で報告され、利用者の生活とホームの運営に活かす取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、ホームの玄関が入りやすい雰囲気であるためか、住民が野菜を持って立ち寄りたり、顔をのぞかせたりと、地域との交流は自然に深まっている。近くの保育所へ散歩に出かけ園児と遊んだり、小学生や中学生が訪れる福祉体験では生徒達がゲームや手遊びでお年寄りと触れ合ったりと、子供達に福祉の心が芽生えることに貢献をしている。</p>
重点項目③	
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型としてグループホームが位置付けられたことにより、「地域との共生」が理念の中にうたわれており、利用者本位の生活を支える支援を視点に作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所内に掲示してあり、管理者と職員は、全体会議やケア会議の中で、理念の実践に向けての取り組みについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入はしていないが、小学校の運動会には招待を受けたり、散歩中の人々が野菜を持って立ち寄るなど、グループホームが自然に地域に溶け込み、住民がさりげなく訪れる場所にもなりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が作成した自己評価表を職員が目を通し意見等を出し、まとめたものである。評価の結果は、ケア会議内で報告され、ホーム全体のサービスの質の向上に活かしている。	○	自己評価はホーム全体の振り返りでもあり、職員1人ひとりの立場から自分達の日々のケアの質を評価することが望ましい。職員の心に芽生えた気づきや発見を全員で共有し、日々の支援に結びつけ、常に質の高いサービスを目指せる体制づくりに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政・民生委員・包括支援センター職員・家族・他ホームの代表者など多くの人が参加し、年間行事計画や空室状況などの経過報告に留まらず、地域全体の福祉を考える場となるよう積極的な話し合いを重ねている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の声掛けで地域内5ヶ所のホームが集まり、行政立会いの元で、相談事や課題解決に向けた全体会議を行うなど、市とホームとの「連携・協働」の動きには目を見張るものがある。	○	地域内の福祉が一層向上するよう、今後も行政と足並みを揃えたホームの取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は、機会ある毎に家族の訪問時や電話で説明と報告を行っている。年に2回、ホーム便りを発行し、行事参加の写真も添えて家族に渡している。	○	家族からの声として、「ホームからの報告」に対する満足度がやや低い結果が出ている。来訪時や電話のみでなく、毎月の暮らしぶりや健康状態・受診結果など、家族の安心感を得られるような状況報告の試みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情箱の設置はないが、家族は意見・要望を管理者に直接伝える体制となっている。	○	苦情がないのが必ずしも良いとは言えないため、家族からの意見・要望を吸い上げる様々な努力が望まれる。苦情窓口の拡大、家族アンケートの実施等、職員間で話し合い、より開かれたホームとなるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者と職員の馴染みの関係の重要性を十分理解し、職員の家庭事情に配慮した体制や配置を取る等、離職率が極めて低くなっている。2ユニット間をローテーションで勤務する体制により、全職員がどの利用者とも馴染みとなり、同じ介助・介護を受けられることを目指し、日々努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量の向上を目指す段階別の研修に加え、職員が希望する研修には、勤務シフトを調整し、極力参加できるよう配慮をしている。その内容は報告会で共有され、職員全体のレベルアップを目指した取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の仲立ちによって地域内5ヶ所のグループホームが情報交換や意見を出し合い、相互のサービスの向上を図る取り組みが行われている。ホーム同士の話し合いにより、今後は、職員の交換研修も行い、質の向上に繋がっていきたいとの計画も着々と進んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規の利用者が早くホームに馴染めるよう、ホーム見学や体験入所も行うなどの取り組みがされている。本人本位を大切に、事前の聞き取りや面談を重ね、円滑なサービスの開始ができるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者と職員は、利用者が認知症であっても幸せを感じて人生を送ってもらうことを共通の思いとしており、日々の生活は利用者の意向が尊重された生活となっている。野菜の収穫や落ち葉掃除など、利用者が得意なこと・好きなことを、若い職員に教え、共に行いながら張り合いを持って日々暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から、利用者の思いや意向を汲み取り、支援に繋げている。職員の判断や許可を必要とせず、利用者がそれぞれ独自の意思によって行動し、生活をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望が聞き取られ、介護計画に反映されている。職員が書き溜めた気づきノートにも多くの情報が記録され、介護計画の作成に取り入れられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3~4ヶ月であるが、急変時・必要時は随時見直しを行っている。毎月の全体会議、毎朝のケア会議で職員から気になることなどの意見を聞き取り、生活の援助へ結びつけるような取り組みがされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望にできるだけ添えるように、通院の同行など柔軟な支援を行っている。	○	ホームの多機能性を活かした支援について地域内ホーム全体ケア会議で話し合い、グループホームの位置と存在が地域の福祉向上の発信源となるよう、今後の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による月に2回の往診支援を受け、24時間体制による万全の医療連携を取っている。受診の場合も必要な医療情報を伝えるため管理者や職員が同行するなどの配慮により、家族の安心感を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては、入居時に本人・家族に同意書の説明を行っている。管理者・職員は、終末期はホームとして避けて通れないことと認識しており、終末期指針作りを行う計画をしている。	○	時代の要請は住み慣れたホームでの看取りの方向に動いてはいるが、ホームの力量や体制等、また、終末に至るまでの経過判断も合わせ、職員間や医療機関と十分な話し合いを重ね、今後の重度化・終末期についての指針作りは慎重に進められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室のドアをノックする・トイレのさりげない見守りなど、利用者の尊厳を守り傷つけないような心配りをしている。ホーム内のリビングや居室も利用者の人生の重みと尊厳を深く受け止め、幼稚な飾りつけをせず、落ち着いた雰囲気となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は利用者の自由意志に任せ、各々が自分のペースで着替えをし、朝食の席に付いている。共用空間に好きな仲間と集まり、また、三々五々、ベランダや庭に出て日中の時間を過ごしたり、利用者1人ひとりが自分に合ったペースで1日の時間を過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を収穫する人、野菜の筋を取る人、食事の下準備をする人、お茶とおやつを配る人など、食に関することもその日の行動の一つとなっている。天候によっては、庭に置いた職員と利用者で作ったテーブルで食事をし、職員も談笑に加わりながら介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回程行い、リビングの壁に貼られた大きなカレンダーによって「お風呂の日」と利用者が自分で認識ができるよう配慮している。利用者の希望により、入浴の順序も調節し、シャワー浴にも柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭を埋め尽くす枯れ葉の掃き掃除、畑の草抜きなどホームの外周りの手入れを利用者が一手に引き受け、職員に教えたりしてホームの生活を共にしている。職員は利用者1人ひとりの生活歴や趣味などを把握し、利用者の活気や楽しみごとを見出す努力がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や外出は、利用者の体調や気候に合わせて柔軟に行っている。遠くまでの散歩や喫茶店・外食などは個別に対応している。広い庭での畑や山の緑を眺めながらのお茶や食事は、四季を味わうことができ、外気浴も兼ね、利用者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけられておらず、利用者は自由に出入りでき、広い庭で楽しんだり、ウッドデッキでの日光浴など、職員の見守りにより、利用者のはのびのびと暮らしている。職員の日々のケアによって穏やかさを取り戻し、現在は無断で出て行く人はいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回評価の改善課題であった利用者との訓練は、職員と利用者が共に訓練を実施した。職員が防災研修に参加し、災害に関する対応の重要性を認識している。	○	食料・飲料水の備蓄、職員の参集方法や心構えと動き方、広域内避難場所とその経路地図、家族への連絡方法など、職員間で話し合いを重ね、行政の知恵も借り、地域内グループホームの会議でも課題にするなど、さらなる取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別ノートに記録され、利用者の個々の健康管理の情報としている。系列ホームの栄養士がカロリー計算や栄養バランスチェックをしており、助言を受けている。利用者の状態に合わせ、刻みやトロミを付けるなど、こまめな対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体には天然木が多く使われ、ぬくもりが感じられる作りとなっており、昭和を思わせる落ち着いた雰囲気となっている。リビングには小さな仏壇が置かれ、折にふれ手を合わせる利用者の姿も見られた。利用者は昼食後ウッドデッキや庭・廊下の隅に置かれた椅子など思い思いの場所で過ごし、ゆっくりとくつろいだ日々を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・テーブル・椅子・ソファなどはホームのものであるが、使い慣れ馴染んだ物品も持ち込まれている。手作りの作品や家族の写真が飾られ、その人が暮らしやすい居室となっている。利用者は居室内で1人の時間をゆったりと楽しんでいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。